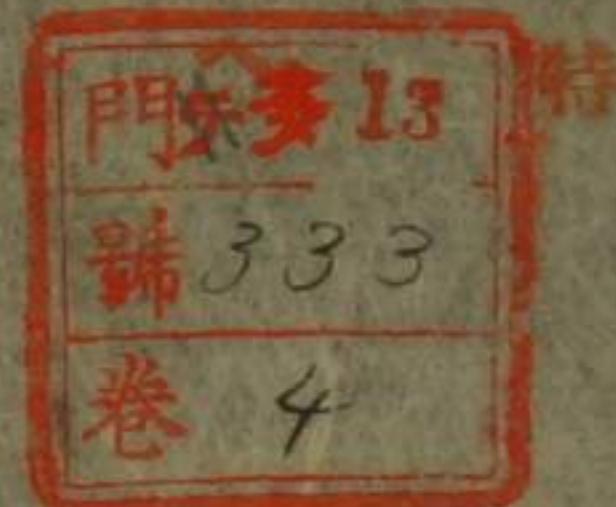




樂屋方言卷之四

世話場

頭取へと代をいはぬ代をすとあそ生年のえり
ある「ま」もあらうる乃はゆくまよ一
きひあふがとくまの事生まつてはまつた切と
せんくわとくまの役をりとあはくまの
役人とめぐれまく一ツサセ事とくま
りりの娘がまくまく場を野毛のあらむ
いりまく松井がおおやかまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく



卷之三

中画 小杉 仁義

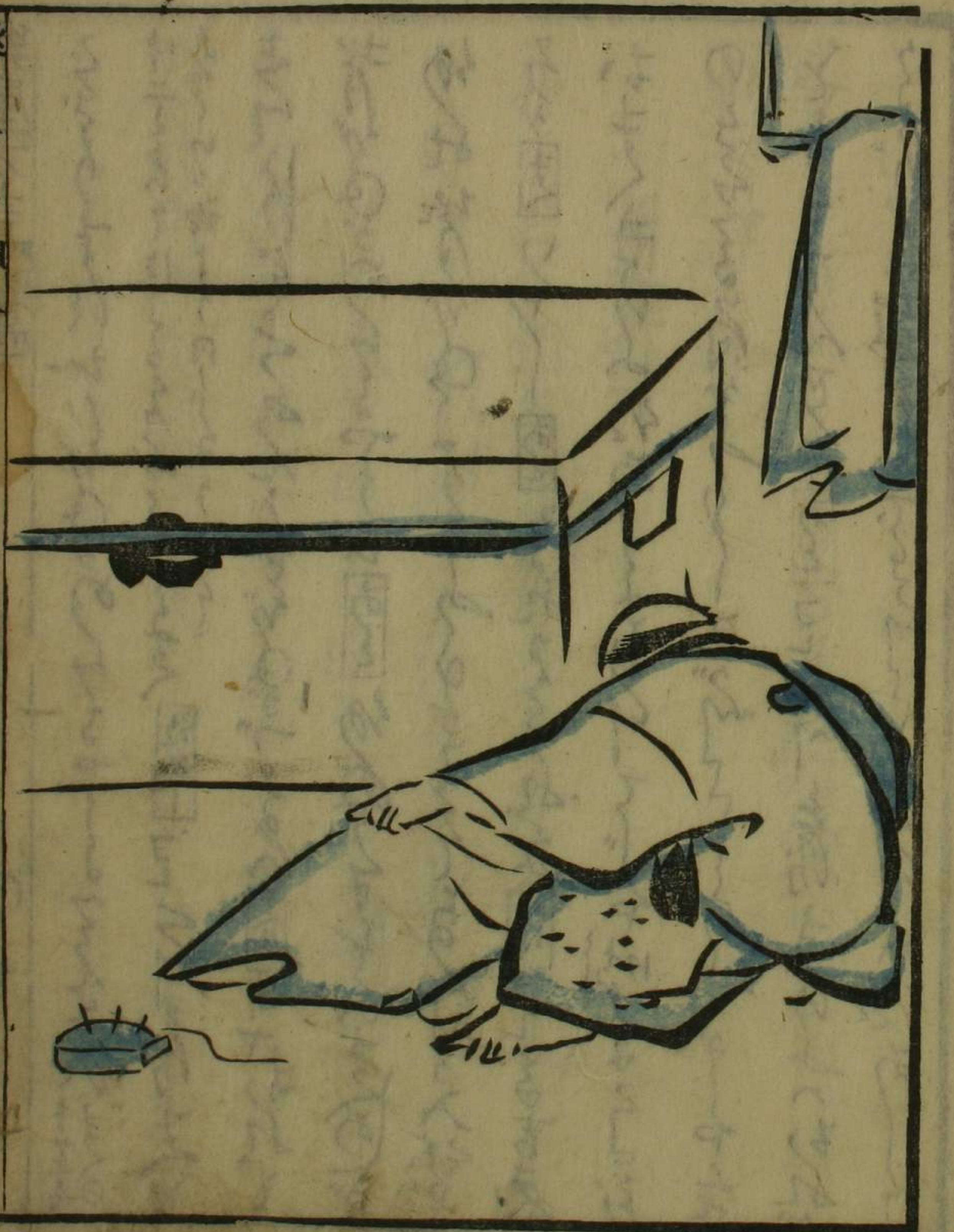
多うも三日の方へはすとつてゆやう
内包入の用ひあるとしてお旅の
事よりあらまよちきりらるる筆致とおもふ有
りりか二隊の車輦をひきそまへ一人
中身のほんと人さしと謂ふよかと候はる
つておてもあてひれをひきまとひておもひ
羨美ハイひきまとひておもひまと
トスムよスモトハイひきまとひておもひまと
併の小物のトハイひきまとひておもひまと
トスムよスモトハイひきまとひておもひまと



服



はまくら湯があつたとみうがてうしまを
まのめゆる所をかよひ居とてそを
まくわゆまほねがつまく今口へ
あまきりまともあまきりまくいえ
の通りでござりまん月に三時既に
湯のむげや居のうあひがもどりひま
モニお前の角トヤがちまくの湯との
弓リヤもトヤが二時既の湯とのむ
うかがひまくのとまくの四ひ秋
まくら湯があつたとみうがてうしまを



金之松牛馬之口

通行

おとづれの初めにあはれの里を経て之へ
まことにかくもよかとまことにかくも經
るがまへたまへてのりまへてせんせん
ちああけぬまへてせんせんせんせん
ともうかくもよかとまことにかくも經

表合

あひのじやまや **五九ハ** りしのどうケトは
くもとへるをあひがめ **五七** イヤサキミ
ゆれど血がまきぬかる人のりよ
みるやうとつけてあれせいせう
おちてぬしてあらぶ **五八** おもづ
そぞくの身より **五七** のれして一
そぞくのまわすり **五八** おもづ
さざくるのむすまわすりやと
一フあつるのくわく吉跡をもくま
あひのじ **五八** いアリ そぞくふうとく

かみへとみ役ニ入に **五九** 俗又そん
きやくとおくれ **五九** ヨモヤマトコロヒセ
みてやくくよのあんぐや **五九** あい
國ハサアマヒリのりくじよちよ
ト外人のまくまとサアモヒトトキトラモリヤ
モクまくとまのとちよ **五九** イヤ
きのくとちよがよそくわくわくトキモリヤ
物ハコレ往々ヒ袖をぞよ通ふのじやうわ
アモリヒヤトシハ **五九** ドレトモリハ行もよ
トリのゆくアモリハのじよ方ガアモリモ袖を

トヒラフケアシムハドガレ庄とトモニ
コレキヌハヨホムチカトヨラスアトリシス
トウタシトモシカトブグンミチジイセナア
キミシミシミシミシミシミシミシミシミシ
〔五〕セシミシミシミシミシミシミシミシミシ

サヌシムシマシ
シモシカシシ
シシシシシシシ
シシシシシシシ

